【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1311A1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1）（4館共通）ア、（東京国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】
(東京国立博物館)
ア　新型コロナウイルスの影響を勘案し、オンライン月例講演会やオンラインギャラリートーク等、YouTubeを利用したオンラインによる動画配信を実施した。また、4月には大講堂での連続講演会の実施、7月以降は大講堂にて対面での月例講演会を再開した。東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートークは、Microsoft Teamsを利用したオンラインによるスライドトークの形式で実施した。
　いずれもオンラインによる応募方法、座席数や座席間の距離、換気や除菌対策等、新型コロナウイルスの感染予防と拡大を十分に考慮して実施した。「ウィズコロナ」に即した開催となるよう、従来の運営を適宜チェックし、より安心・安全な方式を模索している。
イ　新型コロナウイルスの影響を考慮し、本館19室のみどりのライオン、東洋館6室のオアシスを引き続き閉室とした。また、東洋館2室等の体験も引き続き中止した。ウェブページ「みどりのライオン オンライン」では動画やダウンロードできる素材を継続して増やし、遠隔地の利用者にも学習機会を広げることができた。
（ア）　体験型展示・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」はデジタルコンテンツやスタンプなどを通し、多様な文化体験を提供した。会場の運営について感染予防対策を万全にし、一部プログラムを動画配信に置き換え実施した。
（イ）　新型コロナウイルス感染拡大により中止となるプログラムがあった一方、ガイドアプリ「トーハクなび」を活用したデジタルスタンプラリーや、干支のカレンダー/ワークシートのPDF版公開など、代替プログラムを実施し、学習機会を拡大した。
（ウ）　本館地下みどりのライオンでは配信用の動画撮影、zoomワークショップ実施等オンライン発信事業を行った。また、恒常的に日本文化体験が行える参加型展示を本館特別4室に整備し、「日本文化のひろば」として4年1月に通年開室を開始した。

オンラインスクールプログラム実施風景

ウ　対面によるスクールプログラムは引き続き休止し、事前視聴動画の提供、ガイドアプリ「学校版トーハクなび」タブレット端末の貸出、zoomによるオンラインプログラムを行った。また、教員を対象とした対面での研修は引き続き中止とした。盲学校対象のスクールプログラムはMicrosoft Teamsによるオンラインで実施をした。

【補足事項】
ア 講演会14回、参加者10,199名（参加者は通常参加者数とYouTube再生回数の合計）
　オンラインギャラリートーク12回　参加者23,567名（参加者はYouTube再生回数）
　東京藝術大学大学院インターンによるギャラリートーク11回134人
イ(ア)親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」(体験型展示)43回(43日間)参加者15,737人
ウ スクールプログラム38校1,491人(小学校10校370人、中学校16校899人、高校9校201人、一貫校3校21人)

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
講演会等の満足度アンケート	84.85%	88%	B		87.8	88.0	84.5	-
講演会等の開催回数（関連指標）	39回	-	-		125	93	97	19

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス感染拡大のため対面プログラムが中止となったが、オンラインプログラムや動画配信など新たな試みを行った。体験型展示も感染対策を万全にする、あるいは関連企画をオンライン配信にするなどして順調に開催されたため、年度計画を達成できたと判断した。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮した実施方法を取りながらも、各種プログラムの内容や幅広さは保ちながら、今後につながる事業実施が遂行できている。

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1311A2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1）（東京国立博物館）エ、オ、カ

担当部課	学芸企画部博物館教育課 総務部総務課	事業責任者	教育普及室長　藤田千織 教育講座室長　井出浩正 課長　竹之内勝典

【実績・成果】
エ　外国人来館者を対象としたガイドツアーを計画したが、新型コロナウイルスの影響により、実施は延期となった。
オ　29年度より継続実施している、訪日外国人をメインターゲットとした体験型プログラム「日本文化体験」は体験型展示・親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」として実施した。外国人来館者などに人気の高い4つのジャンルをテーマに設定し、「浮世絵」では版画の摺り工程の展示やスタンプによる重ね摺りの体験、「よろい」では模古的に作った甲冑の展示や、それを利用した着付け体験・着付けデモ・ハンズオン、「きもの」では着物の様々な模様をモチーフとして制作したオリジナルぬり絵の体験、「漆工芸」では国宝八橋蒔絵硯箱を主題とし、デジタル技術を駆使したコンテンツ構築により、オリジナルの文様をデジタル空間でデザインし画面上にアーカイブして鑑賞したり、ペーパークラフトにダウンロードするなどインタラクティブな体験の機会を提供した。会場では点字によるリーフレットの配布、触察ボードの設置、多言語での解説などを実施し、多様な来館者への配慮を行った。
カ　新型コロナウイルスの影響により、広く一般に向けたバックヤードツアーの導入は延期となったが、美術館・博物館関連団体等の希望に対し、個別に案内を行った。

【補足事項】
オ　日本文化体験
親と子のギャラリー「まるごと体験！日本の文化 リターンズ」（体験型展示）　43回（43日間）参加者15,737人

親と子のギャラリー「まるごと体験！
日本の文化　リターンズ」会場の様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 日本文化体験プログラム（親と子のギャラリー）は、会場での感染対策を万全にする、あるいはプログラムをオンライン配信動画に置き換えるなどして順調に開催された。 新型コロナウイルス感染拡大により、延期とせざるを得ない事業もあったが、「新しい生活様式」に配慮しながら、状況に応じた教育普及事業を実施できた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 今中期初年度となる３年度は新型コロナウイルス感染拡大が継続していたため、日本文化体験展示の会場運営方法を工夫するなどして事業を実施した。また実施予定であったプログラムをオンライン配信動画に変更することで、コンテンツ内容や実施方法などを研究する機会ともなり、より広い範囲の利用者に届けることができた。 以上のことから、所期の計画を遂行できていると判断し、Ｂ評価とした。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1311B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（４館共通）ア、(京都国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　永島明子

【実績・成果】
（４館共通）
ア　京都国立博物館においては、31回の講演会等を開催し、満足度は86％であった。

動画「今日から君も狛犬博士」

（京都国立博物館）
ア
・「記念講演会」(14回・1,106人)、「土曜講座」(12回・583人)、「夏期講座(日本人と自然Ⅲ)」(1回・73人)、「社会科教員のための向上講座」(1回・34人）を実施した。
イ
・特別展関連鑑賞ガイド「京の国宝はじめてガイド」(日本語105,500部・英語5,000部・中国語700部・韓国語700部)、「即翁さんの宝物」(日本語22,600部・英語1,700部・中国語500部・韓国語300部）を発行した。
・子ども向けリーフレット「京都国立博物館へようこそ」(1回・5,000部）を増刷した。
・「博物館Dictionary」(6回・12,000部)を発行した。
・名品ギャラリー ジュニア版音声ガイド（日英中韓　各38本）を作成した。
・「新しい生活様式」に配慮した教育プログラムの展開の一環として、「今日から君も狛犬博士」「おひなさまのヒミツ」（YouTube京博チャンネル）の動画（日英中韓計8本）をウェブサイトにて公開した。
・同じく「新しい生活様式」に配慮した教育プログラムの展開の一環として、ウェブサイト「京博ものがたり」(日英中韓）を公開した。
・「文化財に親しむ授業」(7回・425人)、複製を活用した授業への助言・補助（4回・321人）を行った。
・スクールプログラム、来館学校団体等への対応（4回・53人）を行った。
・「記者体験in京都国立博物館」(京都市教育委員会主催）(1回・57人）に協力した。

【補足事項】
(京都国立博物館)
ア　・新型コロナウイルスの影響により、講演会等は定員を講堂座席数の半分（100名）に減らして実施した。
イ　・新型コロナウイルスの影響により、ワークショップ、ミュージアム・カートは2年度より中止している。

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
講演会等の満足度アンケート	86%	82%	B		83.5	80.0	83.4	83.4
講演会等の開催回数（関連指標）	31回	－	－		32	37	28	23

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響により、2年度から引き続き講演会等は定員を例年の半数に減らして実施しており、参加者は減少している。対話や接触を伴うワークショップやミュージアム・カートも中止しているが、それらに代わり、印刷物を充実させ、動画の作成・公開を行うことで、来館者だけでなく、オンラインでの利用者にも学習機会を提供することができたことや、アンケート満足度も86%となり目標値を達成することができたことからＢと評価する。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	新型コロナウイルスの影響により、定員の削減、ワークショップの中止など一部活動を縮小したが、訪問授業など、実施できる部分については、感染症対策を取ったうえで、活動を継続することできた。また、2年度は中止した教員向けの講座の再開、印刷物やオンラインコンテンツの充実など、中期計画の初年度として、感染症対策と両立して可能な限りの活動を行うことができたため、Ｂと評価する。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1311C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（４館共通）ア、(奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	学芸部	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】
（４館共通）
ア 3年度は講演会等を27回実施した。アンケート結果は92%であり、目標水準を上回った。
（奈良国立博物館）
ア 講座等の開催
・サンデートークは毎月第3日曜日に12回実施。計805人の参加があり、アンケート結果で平均満足度90%を得た。
・公開講座は5つの特別展及び1つの特別陳列の会期中に15回実施。計1,060人の参加があり、平均満足度93%を得た。
・夏季講座及び正倉院学術シンポジウムはコロナ禍のため開催を見合わせたが、公開講座の回数を増やす対応を行った。
・YouTube「ならはくチャンネル」で特別展「奈良博三昧」公開講座全6回の模様を公開し、計9,421回の視聴があった。
・特別展「奈良博三昧」では関連イベントとして、親子向けワークショップ「オリジナル工作キット　奈良博ざんまいわいわい紙ずもう」の動画配信を行い、756回の再生回数があった。
・特別展「奈良博三昧」では関連イベントとして親子ワークショップ「切り絵でアート　ならはくの仏像」を7月23日に実施し、47名の参加があった。
・文化財保存修理所の特別公開を12月16日に3回実施し、計78人の参加があった。
・特別陳列「お水取り」では、東大寺の協力のもと、『お水取り「講話」と「現地解説」の会』を4年3月26日に実施し、38人の参加があった。
イ　小中学校との連携
・4年1月～2月にかけて、大分県商工観光労働部先端技術挑戦課と連携し、大分県内の小中学校や奈良市立の小学校を対象に、遠隔操作ロボットを活用した学校オンライン中継授業を実施した。小学校を対象に1回、中学校を対象に12回の計13回の授業を実施し、計446人の児童・生徒を案内した。
・特別展「聖徳太子と法隆寺」では関連イベントとして奈良県の協力のもと「聖徳太子ジャンボすごろく」5月4日・5日に実施し、合計43名の参加があった。
ウ　奈良市教育委員会及び奈良教育大学との連携
・奈良市教育委員会と連携して実施している世界遺産学習について、2年度は新型コロナウイルスの影響により、全面的に休止となったが、3年度は再開することができた。3年度は、計17校840人の奈良市立小学校5年生の受け入れを行った。通常、世界遺産学習はボランティアが児童を案内する形で実施しているが、3年度は対面形式での案内が困難であったため、代わりに事前学習キットを実施校に提供した上で来館してもらい、来館時にはこども向けワークシート「ならはく仏像クイズ＆ミッション」を各児童に利用しながら展示を見学してもらう形式でプログラムを実施した。さらに3年度は、奈良市立済美南小学校と奈良市立大安寺小学校の2校計82人に対し、オンライン中継形式で世界遺産学習を実施する試みも行った。オンライン中継形式による世界遺産学習はクラス別に計3回実施した。
・ ESD（持続発展教育）プログラムの開発の一環として、特別展「奈良博三昧」の関連イベントでは、奈良教育大学の学生が作成した動画を使って親子向けワークショップ「オリジナル工作キット　奈良博ざんまいわいわい紙ずもう」の動画配信を行い、491回の再生回数があった。
エ
・地下回廊での仏像模型及びパネル展示にて文化財の情報を引き続き公開した。

【補足事項】

［サンデートークの様子］

［YouTubeで公開した公開講座映像］

聖徳太子ジャンボすごろく

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
講演会等の満足度アンケート	92%	89%	B		89.0	88.0	91.7	90.4
講演会等の開催回数（関連指数）	27回	－	－		26	27	25	12

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルス対策として定員を半分以下とする措置の継続により、参加者数は平均70名という水準で推移した。しかし、検温・消毒等の徹底や、講座の事前ウェブ申込システムの運用により、各回とも大きなトラブルもなく安全に実施することができ、アンケートにみる満足度は極めて高かった。さらに YouTube「ならはくチャンネル」で特別展「奈良博三昧」公開講座全6回の動画を公開し、計9,421回という多く聴講の機会を提供できたことを勘案し、左記の評定とした。なお上記の動画配信は一方通行であるため、聴講者の意見を聴取できないという難点があり、今後の課題とすべきである。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 特別展等に関連した公開講座、当館研究員によるサンデートークを開催し、仏教美術のファンから初心者の方まで各々に応じた学習機会を提供した。新型コロナウイルス対策として対面での参加人数を制限するなど、安全対策を講じながら各回計画どおり実施した。さらに特別展「奈良博三昧」公開講座全6回の動画配信、奈良教育大学との共催による親子ワークショップの動画配信を行うなど、他機関とも連携協力しながらオンラインを活用した新しい学習機会を提供し、中期計画を遂行できていることから左記の評定とした。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　1/2

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（4館共通）ア（九州国立博物館）ア、イ、ウ、カ、キ、ク、ケ

担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長　田中篤 課長　白井克也

【実績・成果】
（４館共通）
ア　新型コロナウイルスの影響により、4月から実施予定であった講演会等のアンケート調査を4年2月より開始した。特別展記念講演「最澄と九州天台」では136人の参加があり、満足度アンケート結果は92.9%であった。また、記念座談会「英彦山と神仏習合の歴史と未来」では130人の参加があり、満足度アンケート結果は90.4%であった。3年度に実施した講演会等アンケートの平均満足度は92.2%であり、好評であった。
（九州国立博物館）
ア　「皇室の名宝」展では、（第1回）記念対談「やきもの王国　九州と近代の皇室」（7月24日、講師：沈壽官窯　十五代沈壽官氏・宮内庁三の丸尚蔵館主任研究官　岡本隆志氏）と（第2回）記念講演会「美を伝えゆく－《動植綵絵》と《春日権現験記絵》の修理を通して」（8月8日、講師：宮内庁三の丸尚蔵館首席研究官　太田彩氏）をミュージアムホールで実施し、皇室と九州の関わりや三の丸尚蔵館が取り組んできた保存・修理事業についてひろく紹介し、理解を深めることができた。（第1回：聴講人数124人、第2回：聴講人数140人）
　「最澄と天台宗のすべて」展では、（第1回）記念講演会「最澄と九州天台」（4年2月26日、講師：天台宗宗務総長　阿部昌宏氏）と（第2回）記念座談会「英彦山と神仏習合の歴史と未来」（4年3月6日、講師：宮司　髙千穂秀敏氏・禰宜　髙千穂有昭氏）をミュージアムホールで実施し、天台宗と九州のかかわりや神仏習合についてわかりやすく紹介した。（第1回：聴講人数136人、第2回：聴講人数130人）
イ　大宰府学シンポジウム「アジアを変えた鉄―大宰府鴻臚館の衰退と海商の時代―」（4年3月5日）を開催し、館内外の10人の研究者による鉄のアジア交易についての発表後、文化交流展室で展示解説を実施した（聴講人数120人）。
ウ　展示への理解や文化財の楽しみ方を促すことを目的とし、研究員によるミュージアムトーク（展示解説）を行った。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、展示室内のシアターにて着席形式で開催している。（実施回数27回、参加人数449人）
　さらに、8月よりミュージアムホールの大画面を使って特集展示の作品の紹介をする「きゅーはく☆とっておき講座」を開始した。（実施回数5回、参加人数280人）また、2年度に引き続きウェブサイトからの作品解説の動画配信も行った。（実施回数2回）
カ　絹の文化財に親しんでもらうためのワークショップ「絹の体験教室 KURUKURU SILK」の糸紡ぎ編2回、糸取り編を2回行った。新型コロナウイルス感染防止のため、オンラインで開催。募集人数をそれぞれ8人とした。糸紡ぎ編は、繭を煮て真綿を作り、紡錘車を使った真綿から糸にするまでの工程を体験する。糸取りは、繭を煮て糸を取るまでの体験。関東地方、沖縄など、遠方からの参加者が多かったこと、また小さな子供がいる方も自宅で子守をしながら参加できたことはオンライン開催ならではの成果である。（糸紡ぎ：参加人数14人、糸取り：参加人数19人）
　文化交流展の「アジアに広がる仮面の世界～A Menagerie of Asian Masks～」及び特集展示「手わざ―琉球王国の文化―」にあわせて、体験型展示室「あじっぱ」では、それぞれ「仮面の世界」や「沖縄」の展示を行った。
キ　「最澄と天台宗のすべて」展では、延暦寺で最も過酷な行の一つ、千日回峰行をクローズアップし、その全貌についてイラストを交えてわかりやすく紹介した。また、太宰府ゆかりの場所である宝満山と最澄との関係について解説も作成した。
ク　筑紫野市歴史博物館等に講師を派遣した。
ケ　視覚障がい者向け文化交流展示室案内の配布を福祉団体や特別支援学級、個人来館者に行った。また、2年度に実施した手話通訳付きオンラインバックヤードツアーの参加者の紹介で、静岡県聴覚障害者協会青年部と共催で手話通訳付きオンラインバックヤードツアーを行った。青年部事務局も参加者もともに当事者であったため、当事者の意見を直接取り入れることができ、当館にとっても大変有意義な経験となった。4年度も手話通訳付きオンラインバックヤードツアーを実施する予定である。

【補足事項】

【評価指標】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
講演会等の満足度アンケート	92.2%	86%			－	－	80.2	92.3
講演会等の開催回数（関連指標）	50回	－	－		125	93	97	19

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度は新型コロナウイルス感染対策を行いつつ、講演会、シンポジウム及びミュージアムトークを開催し、年度計画を達成した。講座・講演会のアンケート調査は4年2月からの実施となった。アンケートが実施できた講演会の平均満足度は92.2%と好評であった。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度は中期計画の初年度として、講演会やミュージアムトーク及びワークショップ等を開催することで、学習機会を提供した。 3年度より、ミュージアムトークの拡大版である「きゅーはく☆とっておき講座」を開催した。講師は当館研究員だけでなく、岡山市立オリエント美術館の主管学芸員 四角隆二氏にも講演いただくなど、他館との連携協力により文化財の魅力等をさらに詳しく来館者に伝えることができ、中期計画を順調に遂行している。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1311D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　1)学習機会の提供　2/2

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-1)（九州国立博物館）エ、オ

担当部課	交流課 学芸部企画課	事業責任者	課長　田中篤 課長　白井克也

【実績・成果】
（九州国立博物館）
エ
・体験用甕棺キットを制作した。文化交流展室で展示しているレプリカと同様、福岡県・三雲南小路遺跡出土の伊都国王墓の甕棺をモデルにし、実寸大で制作した。甕棺埋葬のプロセスを伝えるワークショップで活用する。
・当館の建築模型を製作した。視覚障がい者向けにも使えるように展示室のフロアマップや、バックヤードで紹介する場所、免震層など、地下から４階までの階層が触ってわかるようにした。
・新型コロナウイルスの影響で外出を控える人が多いことから、自宅にいながら博物館体験できるウェブコンテンツ「おうち de きゅーはく」を２コンテンツ新規制作し、総計 17 コンテンツを公開した。
・自宅で楽しめるコンテンツ第２弾として、映像や画像などの視覚情報ではなく、声や音で当館の魅力を伝えるラジオ形式のウェブコンテンツ「ラジオ de きゅーはく」をウェブサイトに掲載。普段あまり紹介されることがない博物館の様々な仕事や人、博物館周りの環境などを紹介した。在宅時間が増える中、「ながら聴き」する人をターゲットとした。リスナーからお便りを募集し、番組内で質問に答えるなど、双方向のコンテンツとした。（掲載数：12 コンテンツ）
・２年度に引き続き、持ち帰りキット「おうち de あじっぱ」を追加制作した。（追加：５種類、合計 20 種類）また、「きゅーはくの絵本」読み聞かせ動画を３本制作しインターネットで視聴できるようにした。
・焼物づくりワークショップ「ぬりぬりグレイズ～十四代目中里太郎右衛門氏と三彩に挑戦！～」をオンラインにて２回、対面式にて１回の計３回開催した。焼物づくりの体験を通して、従来とは異なる陶磁器の見所や面白さを伝え、作品への理解を深める機会を提供した。（オンライン開催（１回目）：８人、オンライン開催（２回目）：８人、対面式：12 人）
・織技法に着目した鑑賞方法を提案するためのワークショップ「カード織り」を２回行った。カード織りが施されている当館所蔵の文化財を見ながら研究員の解説を聞き、実際にカード織りを体験する。感染拡大防止策として、募集人数を各回 10 人とした。年配者から子どもまで幅広い年齢層が参加した。（1 回目:9 人、2 回目：5 人）
・体験型展示室「あじっぱ」では、アジア諸国の生活・文化や日本の伝統文化を展示紹介し、異文化間の相互理解を促進する場を提供した。また、コロナ禍であっても展示鑑賞を楽しみながら学びにつなげる取り組みとして、「あじっぱ de どーこだ」を制作し、教育効果の向上を図った。

ぬりぬりグレイズ広告

オ
・「全国高等学校歴史学フォーラム2021」を実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止策として、参加校を10校とし、参加生徒を各校2人までとした。全国から応募があり、福岡県3校、他県7校が参加した。
・練馬区立大泉北小学校からの依頼により６年生社会科「大陸に学んだ国づくり」の単元から遣唐使による大陸との交流について研究員が生徒の質問に答える形でリモート授業を行った。（9 月 27 日実施）
・まん延防止等重点措置発令のため来館できなくなった久留米市立櫛原中学校からの依頼により、文化交流展示室及びバックヤードの紹介をリモート形式で行った。文化交流展示室においては生徒（1 年生）の関心が高かった文化財について、担当研究員が解説を行った。（4 年 3 月 7 日実施）
・学校貸出キット「きゅうぱっく」は 49 件・55 パックを貸し出し、4,036 人の児童生徒が体験した。
・小中学生を対象に様々な学習プログラムを体験させる学校教育活動支援事業については 11 月から再開し、20 校を受け入れた。

（補足事項）
エ　「おうちdeきゅーはく」取材件数（新聞1、ラジオ1）
・体験型展示室「あじっぱ」では10回の展示替えを実施した。入口横ディスプレイとあじ庵では特集展示を行った。
オ　3年度の学校教育活動支援事業のプログラムは、新型コロナウイルスの影響で入室制限やガイドツアーを中止したため、映像資料の視聴（DVD「クイズで学ぶ展示の極意」）や当館周辺の散策ツアーを行った。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度の経験を生かして持ち帰りキットや学校貸出キットを提供した。また、移動博物館車「きゅーはく号」を活用することにより、幅広い層に向けて体験型コンテンツを提供することができた。リモート授業や11月から再開した学校教育活動支援事業では、児童生徒に博物館の魅力を紹介することができた。

【中期計画記載事項】
講演会、ギャラリートーク、 スクールプログラム、ワークショップ及び職場体験等による学習機会を提供する。その際、対象やテーマに応じて学校、社会教育関係団体、国内外の博物館等との連携協力を行う。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画初年度である３年度は、各事業で新型コロナウイルス感染防止策を策定し、職員間の周知を図ったことで、スクールプログラム（学校教育活動支援事業）、ワークショップを再開することができた。新型コロナウイルスの影響により一部未再開の事業もあるが、中期計画を遂行できているといえる。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1312A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（東京国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	学芸企画部博物館教育課	事業責任者	ボランティア室長　鈴木みどり

【実績・成果】

ア　新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言発令下は館内での活動を中止した。発令解除後は、活動内容を限定したうえで館内案内などを実施し、新たに本館特別4室「日本文化のひろば」での活動も開始した。また、2年度より延期していた新規ボランティアを採用し、研修を行った。オンライン機器利用のための研修を引き続き実施し、ボランティア間のコミュニケーション及びモチベーションの継続を図った。

　ワークショップなどのオンラインプログラムのトライアルへの参加や、講演会のサポートなど、コロナ禍において可能な形での各種事業の補助活動の内容や方法を探り、実施した。

イ　点字パンフレットの印刷、盲学校対応プログラムの準備及び実施、通年でバリアフリー対応班への情報発信等による研修を行い、バリアフリーへの意識や関心の継続を図った。

ウ　外で行うガイドツアーのグループは、再開の準備を段階的に実施した。2グループが来館者向けツアーを再開、2グループがボランティア対象の練習を重ね、4年度の再開を予定している。

　また、展示室内のガイドツアーがコロナ禍のために休止中のグループは、トーハクウェブサイト上「みどりのライオン　オンライン」でダウンロードできるウェブ新聞の作成と公開のほか、対面やオンラインを使用した勉強会を実施した。

エ　対面でのスクールプログラムが中止された代わりに、学校向けオンラインプログラムのトライアルに参加し、改善のための意見を述べた。

オ　ボランティアデーをボランティア研修の一環として2日間実施した。

　ボランティアを対象とした屋外のガイドツアー等のほか、「オンラインボランティアデー」として自主企画グループ説明会と、研究員によるオンラインギャラリートークの開催、ボランティアの投稿による「誌上ボランティアデー」の冊子を発行した。

樹木ツアー実施風景

【補足事項】
新型コロナウイルスの影響を勘案し、2年度採用予定だった新規ボランティアの採用及び研修を3年度に行った。
東京藝術大学大学院インターンは、すべてオンラインによる活動に変更した。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 年度計画に基づき、館内案内、各種事業の補助活動、障がい者対応を実施した。 新型コロナウイルスの影響により休止しているガイドツアー再開に向け、段階的に準備し、野外でのガイドツアーの一部は来館者向けツアーの再開、一部は練習を重ね、再開が見込まれるところまで到達できた。一方でガイド休止中のグループは、ウェブ新聞などの新たな試みを実施した。また、オンラインによる機器利用等の研修を、２年度に引き続き実施した。 新型コロナウイルスの影響を受けながらも、オンラインを活用するなど新たな試みを実施できたことを評価し、Ｂ評価とした。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、コロナ禍におけるボランティア活動を安全に実施する体制をとり、現状で可能な範囲の来館者サービスの実施や、現在休止中の活動の再開にむけて準備を行った。 また、ボランティアにオンライン機器の研修を行い、活用機会が増えたことで、ボランティアの新たな活動方法が広がった。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1312B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 教育室長　永島明子

【実績・成果】
（京都国立博物館）
ア　新型コロナウイルスの影響により活動を中止している「京博ナビゲーター」について、他館の動向を調査し、活動を再開する場合の内容や、再開できる状況の目安について検討した。
イ　収蔵品調査や社寺調査補助のため、調査・研究補助ボランティアを受け入れた。(14人)
ウ
・文化財ソムリエを対象としたスクーリングを実施した。(18回)
・文化財ソムリエ（20人）が以下の活動を行った
　①京都市内の小中学校への訪問授業「文化財に親しむ授業」(7回・425人)
　②記者体験in京都国立博物館（1回・57人）
エ
・「京都・らくご博物館」において、落語研究会所属の大学生をボランティアとして起用した。(6人)

文化財ソムリエを対象としたスクーリング

【補足事項】
ウ
・文化財ソムリエとして登録している大学生・大学院生のボランティア（20名）に対して、当館研究員がスクーリング18回を実施した。文化財や教育普及の手法についてレクチャーを行い、授業案や教材を作成する際には議論を促し、指導・助言を行った。小中学校への訪問授業の際には、学校と連携し感染症対策を取りながら行った。
・「文化財に親しむ授業」の実施回数に限度があることから、授業を希望する学校に複製品を貸出、教員が授業を行うための支援も行った。(4回・321人)

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、「京博ナビゲーター」は2年度に引き続き中止し、他館の状況を調査しながら、再開の目安について検討した。文化財ソムリエについては、学校からの要望に基づき、感染症対策を徹底したうえで活動を行った。年度計画に基づき、感染症対策と両立しながら、可能な範囲で活動を行うことができた。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により活動が制限されているが、感染症対策を実施し、中期計画の初年度として、可能な範囲で活動を行うことができた。「京博ナビゲーター」の募集・選考・育成には時間を要するため、活動再開に向けては、内容、時期について慎重に検討を行った上で、4年度以降、再開の機会をうかがう。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1312C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（奈良国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	教育室	事業責任者	教育室長　谷口耕生

【実績・成果】

ア　2年度に動画配信やウェブ会議アプリを利用するオンライン形式にて、3年度より活動を開始するボランティアの募集及び選考を行った。3年度は、「ならはくボランティア」として計147人のボランティアを登録し、春より活動を開始した。2年度までは、活動内容別に3つのグループに分かれる形で活動を実施していたが、ボランティア活動の内容や種類を充実化させるため、グループ制を解体し、新たな体制で活動を開始した。

イ　4年1月～2月にかけて、大分県内の小中学校や奈良市立の小学校を対象に、学校オンライン中継授業を実施した。なら仏像館と各小学校をオンラインで繋ぎ、ボランティアや教育室職員がなら仏像館の展示作品を案内した。大分県の小中学校については、小学校を対象に1回、中学校を対象に12回の計13回の授業を実施し、計446人の児童・生徒を案内した。奈良市立の小学校には、計3回の授業を実施し、計82人の児童を案内した。学校オンライン中継授業をボランティア活動として実施するにあたり、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いてきた11月より活動者を募集し、計16回の練習を実施した。本活動に参加したボランティアは計81名で、9つの班に分かれる形で活動を行った。(※ただし新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、1月23日以降のボランティア活動を休止したため、1月24日、2月7日、2月21日、2月28日の授業については、ボランティアの代わりに教育室職員が授業の実施を担当した。)

ウ　ウェブ会議アプリを利用する、あるいは動画を配信する形式にて、ボランティア全員を対象に研修を定期的に実施し、ボランティアの資質向上を図った。活動に関する研修は計19回、特別展に関する研修は計8回それぞれ実施した。加えて、新型コロナウイルスの感染拡大が収束し、いずれ展示案内などの活動を再開することを見据え、各種案内活動に使用するテキストを新たに作成し、ボランティア全員に送付した。作成したテキストは、「なら仏像館案内テキスト」と「庭園・茶室案内テキスト」の2種類である。新型コロナウイルスの感染が拡大していた春～秋の時期に、テキストをもとにボランティアが各自学習を行った。

【補足事項】

ア

学校オンライン中継授業の実施対象校と実施回数は下記のとおり。

1月17日　別府市立東山小学校6年生　1クラス8人（1回実施）
1月24日　大分市立判田中学校2年生　4クラス134人（4回実施）
2月7日　大分大学教育学部附属中学校2年生　4クラス160人（4回実施）
2月21日　大分市立大分西中学校2年生　4クラス144人（4回実施）
2月28日　奈良市立大安寺小学校5年生　2クラス49人（2回実施）
2月28日　奈良市立済美南小学校5年生　1クラス33人（1回実施）

大分県内の小中学校を対象とする際は、遠隔操作ロボットを活用する形式で授業を実施した。奈良市立の小学校を対象とする際は、4Kビデオカメラやパソコン・タブレットなどの各種端末を用い、ウェブ会議アプリを利用する形で授業を実施した。

1 月 17 日の学校オンライン中継授業実施の様子

イ、ウ

3年度より、ボランティア全員がオンライン上で連絡交換できる体制を整えた。ウェブ会議アプリを利用する、あるいは動画配信形式にて研修を実施するほか、クラウドシステムを活用して連絡をとるなど、円滑的なコミュニケーション手段を構築することができた。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 3年度より147人のボランティアを登録し、活動を開始することができた。また、オンライン形式による連絡・学習方法を構築し、各種連絡や研修を円滑に実施できたことから、ボランティアの資質向上を図るという目的は達成できたといえる。更に、大分県内の小中学校や、奈良市立小学校などの学校を対象としたオンライン中継授業をボランティアの活動として計16回実施するなど、ボランティア活動をより充実させることができた。上記の内容から、所期の計画を遂行できたといえる。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新しい生活様式に対応した取組を取り入れ、1月～2月の短期間に計528人の児童や生徒を対象に、計16回の学校オンライン中継授業を実施できたことから、オンライン形式によるプログラムを単発形式ではなく、継続的に提供できる仕組みを作ることができたといえる。ついては、教育活動の充実化を図るという中期計画を遂行できている。加えて、ボランティアに対し、オンライン形式にて研修を計27回実施できた点や、案内活動のテキストをボランティア全員に配布し、各自の学習を促進できた点などから、生涯学習活動に寄与する、さらにボランティアの活動を支援する事業も積極的に実施できているといえる。

【書式A】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1312D

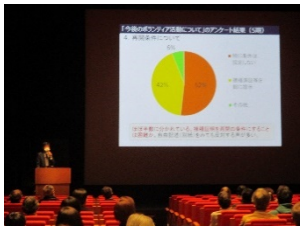
中項目	1．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（3）教育・普及活動　①教育活動の充実等　2)ボランティア活動の支援

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-2)（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	交流課	事業責任者	課長　田中篤

【実績・成果】
（九州国立博物館）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、12月までボランティア活動を休止としていたが、感染状況が落ち着き、活動再開へ向けた準備も整ったことで4年1月より段階的に活動を再開した。また再開するにあたり、「ボランティア活動説明会」を開催し、今後の運営方針や活動方法について説明した。



ボランティア活動説明会

ア　2年度に引き続き、「ボランティア通信」で活動再開後に役立つ情報をボランティア全員に発信した。また、展示解説部会には「展示替えスケジュール・フロアマップ」の提供、手話部会には「手話通訳付きリモートバックヤードツアー」のプログラム案など、各部会の再開後を見越した情報も提供した。

イ　第6期ボランティア(141人)に対し、活動前の事前研修を動画で配信した。「博物館の概要」「展示のコンセプト」「教育普及について」等、8人の研究員がそれぞれの職務について講義した。

ウ　活動の休止が長期化したことに伴い、ボランティアの企画立案によるワークショップは開催できなかったが、各部会がコロナ禍における新しい活動内容を協議しやすいように、他館の活動モデルも参考にし、活動案を提示した。

エ　学校教育活動支援事業は11月より再開したが、3年度はボランティアに学校対応を依頼しない方針となったため、ガイドツアー等は中止した。4年度からガイドツアーを再開予定であり、スクールプログラム班に博物館紹介の資料を送付した。

ボランティア事前研修配信動画

【補足事項】
・3年度末時点でのボランティア数は251人。（第5期ボランティア：110人、第6期ボランティア141人）
・活動休止中は、今後のボランティア活動の在り方について全員にアンケートを取り、その結果も参考にしてコロナ禍の活動方針を検討した。
・活動再開にあたり、ボランティアカウンターでのアクリル板の設置、消毒液の配置といったハード面の他、週の活動回数や館（ボランティア室を含む）滞在時間の制限、活動の事前予約制といったソフト面も含め、ボランティアが安心して活動できる環境を整えた。
・活動はまず第5期ボランティアから再開し、これまでの活動を踏まえ、今後の活動の検討から始めた。特に来館者案内を担当する部会は、ボランティア同士で案内のシミュレーションを行うなど研修を重ねた。本格的な来館者案内は4年度からの再開を予定している。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響により、大半の期間が活動休止を余儀なくされた。しかし、4年度からのボランティア活動再開を目指し、動画配信による事前研修及び活動説明会を開催した。ボランティア活動が、来館者やボランティアにとって安心できるものとなるよう、今後も活動内容及びその環境を整備していく。

【中期計画記載事項】
教育活動の充実及び来館者サービスの向上、さらに、生涯学習活動に寄与するため、ボランティアを育成し、その活動を支援する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 約1年半に及んだ活動休止を経て再開したボランティア活動であったが、まずは活動内容の確認や新しい活動様式の周知から始まった。コロナ禍におけるボランティア活動について職員間で情報共有し、ボランティアに提案できたことで、中期計画は順調に遂行できている。 教育活動の充実、さらには来館者サービスの向上のため、今後もコロナ禍のボランティア活動についてさらに研究していく。

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1313A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（４館共通）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（東京国立博物館）ア、イ

担当部課	総務部総務課 学芸企画部博物館教育課	事業責任者	課長　竹之内勝典 課長　伊藤信二

【実績・成果】
（４館共通）
ア　加入校数 59 校（内訳 法人：2、大学：49、専門学校：2、学部：6）が本制度を利用し、8,532 人の学生、328 人の教職員が総合文化展を観覧した。なお、特別展割引については、展覧会ごとに設定し実施した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア 博物館学芸員を目指す学生の学習意欲の喚起及び職業意識の育成を目的として、大学院生を対象にインターンシップの募集を予定していたが、2 年度に引き続き 3 年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。
（東京国立博物館）
ア キャンパスメンバーズ加入校の学生を対象に、博物館の運営、教育普及活動、国際交流、文化財活用等について講義する「博物館セミナー」、及びキャンパスメンバーズ加入校の学芸員志望学生を対象として、作品の取り扱いなど博物館実務全般について講義・実習する「博物館学講座」の開催を予定していたが、3 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため対面、接触を伴う「博物館学講座」は実施を見送った。参加を希望するキャンパスメンバーズの学生に対し、大講堂・平成館エントランスホールを利用してのリアルとオンラインを活用したハイブリッド方式の講演会である「博物館セミナー」を実施した。
イ 東京藝術大学大学院インターンシップを 3 人受け入れた。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、通常対面で行うガイダンス・検討会・リハーサル及びギャラリートークを、すべてオンラインで実施した。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に続き新型コロナウイルス感染拡大のため、当初予定していた活動が制限されたが、博物館セミナーやインターンシップの受入れなどは、オンラインを活用するなど新たな方法を模索し、感染予防対策を講じて実施できた。 今後も積極的に活動し、大学との連携を深めていきたい。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を行う予定であったが、2年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大のため、活動が大幅に制限された。しかし、その中でもオンラインやリアルとオンラインを併用するなど、「新しい生活様式」に対応した連携事業のあり方を模索して実施できた。こうした新しい手法も加味しつつ、感染収束後を見据えた事業展開を図り、引き続き、インターンシップやセミナー等、大学との連携事業を通じて人材育成に寄与したい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1313B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（４館共通）ア、(京都国立博物館）ア

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 上席研究員　淺湫毅

【実績・成果】
（４館共通）
ア
・キャンパスメンバーズ制度を継続し、加入校 32 校との連携を継続して実施した。
・加入校に対し、名品ギャラリーの無料観覧、特別展の観覧料金の割引、講演会の開催、研究誌・図録の無料提供、施設利用・撮影利用の割引等の特典を提供した。
・加入校増加を目指し営業活動を行った。
（京都国立博物館）
ア　京都大学との連携の一環で同大学院人間・環境学研究科の客員教員として、尾野善裕（考古学・陶磁）、山川曉（染織）、淺湫毅（彫刻）、大原嘉豊（宗教絵画）、永島明子（漆工）の５人が大学院生（修士・博士課程在学者）に対して、京都国立博物館で実際の作品を取り扱いながら、原則対面方式（一部リモート）で文化財に関する講義を行った。受講学生は 14 人（延べ 16 人）である。また、所属する修士課程２人・博士後期課程３人の学生については、演習において論文作成に向けた口頭発表を行わせるとともに、論文作成の指導を行った。

【補足事項】
ア
・名品ギャラリー無料観覧（学生2,889人、教職員248人）、特別展観覧料金割引（学生3,565人、教職員472人）
・特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」キャンパスメンバーズ向け講演会（4月21日　講師：保存修理指導室長　大原嘉豊）（1回・52人）
・特別展「畠山記念館の名品」キャンパスメンバーズ向け講演会（10月14日　講師：主任研究員　降矢哲男）（１回・66人）
・施設利用・撮影利用の割引（加入校の学生による部活動のファッションショーの撮影利用、加入校の教職員によるコンサートの施設利用）
・チラシを作成し、未加入校への営業活動を実施した。

キャンパスメンバーズ講演会

加入校の学生によるファッションショーの撮影利用

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズについては、加入校の学生・教職員に対する特典の提供等を行い、大学等との連携を継続して実施した。 また京都大学との連携講座である人間・環境学研究科の大学院生の講義に関しては、新型コロナウイルスの影響により一部リモート授業となる部分もあったが、原則、実際の文化財を用いた対面式の授業を行うことができ、博物館ならではの授業及び研究指導を行うことができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズの加入校数は安定しており、大学等との連携もできているため、中期計画を順調に遂行しているといえる。 京都大学との連携講座については、引き続き協定に基づき計画的に研究指導を行い、文化財に関わる人材の育成に貢献していくこととする。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1313C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（４館共通）ア、（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）ア、（奈良国立博物館）ア、イ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（4館共通）
ア　コロナ禍の影響もあり、3年度まででキャンパスメンバーズへの入会校数は26校となり、2年度に比べて減少したものの、加入大学とは連携を継続し、キャンパスメンバーズへの入会の勧誘を積極的に進めるよう努めた。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　インターンシップ受入については継続しているものの、学校側がコロナ禍で実施を見合わせており、3年度の受入は無かった。
（奈良国立博物館）
ア
・奈良女子大学大学院人間文化研究科の連携講座（比較文化学専攻）に学芸部研究員1人を派遣し、講義を行った。受講生は前期2人、後期2人であった。
・神戸大学大学院人文学研究科の連携講座（文化資源論講座）に学芸部研究員2人を派遣した。
イ　正倉院展に関する特別授業については新型コロナウイルス対策のため実施していないが、会期中に当館において公開講座を3回実施、また研究員による解説動画を公開して、学生のみならず一般の方へも理解を深める機会の提供を行った。

【補足事項】
・特別展「奈良博三昧」では関連イベントとして、キャンパスメンバーズの奈良教育大学の学生が作成した動画を使って親子向けワークショップ「オリジナル工作キット　奈良博ざんまいわいわい紙ずもう」の動画配信を行い、756回の再生回数があった。
・各展覧会（聖徳太子と法隆寺、奈良博三昧、藤田美術館展、聖林寺展）において、キャンパスメンバーズ校を対象に、研究員の解説付き鑑賞会を実施し、それぞれ53名、51名、28名、59名の参加があった。

わいわい紙ずもう

キャンパスメンバーズ特別鑑賞会

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き、キャンパスメンバーズ加入校である奈良教育大学と連携し、楽しみながら展覧会の理解促進を図る親子向けワークショップを行い、好評を得た。また、キャンパスメンバーズ校の学生及び教職員を対象にした特別な鑑賞会を実施し、参加者の高い満足度が伺えた。 大学との連携協定における講義及び講座の実施など、教育機関との地域連携を引き続き進めることができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 キャンパスメンバーズである大学との連携事業は、中期計画の初年度として、大学の教育プログラムにおいて歴史・伝統文化を発信する教育者の人材育成に貢献することができた。 また、キャンパスメンバーズ制度や大学との連携協定による講座等については、若年層へ来館を促すためにも、引き続き内容の充実及び機会の提供を図っていく。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1313D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　3)大学との連携事業等の実施

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（４館共通）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）ア
・Ⅰ-1-(3)-①-3)（九州国立博物館）ア、イ

担当部課	学芸部博物館科学課 交流課 総務課	事業責任者	課長　木川りか 課長　田中篤 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア キャンパスメンバーズ（学校法人会員制度）による大学等との連携を継続して実施した。
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア 新型コロナウイルスの影響により、文化財保存修復施設を利用して地域大学との連携を図る短期インターンシップは中止した。
（九州国立博物館）
ア
・博物館実習生を14大学から17人、計5日間受け入れた。
（うちキャンパスメンバーズ校は5大学･学生8人）
・京都大学農学系研究科において文化財の生物劣化に関わる講義、また、西南学院大学、九州産業大学などの文化財の保存修復にかかわる講義を当館研究員が一部担当しており、若い世代に文化財の継承の大切さを伝える取り組みを行っている。
イ 放送大学の面接授業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため例年の半数（20人）で実施した。

文化財の撮影実習

博物館実習
付箋で意見を交流

【補足事項】
（４館共通）
ア　大学等との連携を継続するため、3年度も募集・実施し、新たに1校が加入した。また、各教育機関が継続して加入した。（3年度における加入校内訳：大学12校、短期大学3校、高等専門学校1校、高等学校6校）
（東京国立博物館、奈良国立博物館、九州国立博物館）
ア　装潢技術に関する短期インターンシップ「文化財保存修復研修」を予定していたが、2年度に続き3年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から中止した。
（九州国立博物館）
ア博物館実習
・実施期間：8月18日～20日、8月22日～23日（5日間）（合計14大学17人）
・実習内容：各課より博物館の機能を総合的に理解する講義、文化財の撮影実習、多様な来館者に向けてのワークショップの企画などを行った。3年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため期間を5日間とし、意見交換などは対話ではなく、付箋等を活用しながら実施した。

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き3年度においても新型コロナウイルスの影響により、短期インターンシップを中止した。しかし、博物館実習では、14大学から17人を受け入れ、計5日間実習を行った。さらに、放送大学の面接授業は、新型コロナウイルスの影響を考慮し、例年の半数（20人）で実施したことから、年度計画を達成することができた。

【中期計画記載事項】
インターンシップ、キャンパスメンバーズ制度、大学との連携事業等の実施を通じて人材育成に寄与する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 中止した事業はあったものの、新型コロナウイルスの影響を考慮し、適切な人数及び日数において博物館実習を実施できた。さらに、2年度中止した放送大学の面接授業も人数を制限しつつ、再開することができ、中期計画を順調に遂行できている。

【書式Ａ】　　施設名 東京国立博物館　　処理番号 1314A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（4館共通）

担当部課	学芸研究部保存修復課	事業責任者	保存修復課長　冨坂賢

【実績・成果】
大学院で文化財保存や修復を学んでいる学生を対象にしたインターンの受け入れ予定であったが、3年度も2年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から実施を中止した。しかし、NPO-JCPとの共催である「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を画像配信による講義形態で開催し115名の受講者があった。
なお、例年受け入れている大学院等の学生を対象にした保存修復施設の見学も新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から行わなかった。

【補足事項】「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を画像配信について

■講義形態：　オンデマンド
■配信媒体：　クラストリーム【申し込者にログインIDとパスワードと講義視聴URLを配布】
■受講時間数：　全21コマ（1コマ60分程度）
■配信期間：　11月1日(月)～2月15日(火)

講義の配信画像

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 緊急事態宣言の発令、延長が引き続き行われたため、インターンの受け入れなど対人、対面による事業の実施は中止を余儀なくされた。他方、オンラインによる講義・討論、オンデマンドによる配信は社会的基盤も整備されてきたため、「文化財保存修復を目指す人のための実践コース」を遅滞なく実施、継続できたことは評価できる。したがって、評価をＢとした。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 過去のインターン修了者は、文化財修理工房や文化財研究所など文化財とかかわりのある事業所に就職するなど、経験を活かして幅広く活動している。そのため、インターンの受け入れは、社会情勢が落ち着けば再開したいと考えている。 一方、オンラインを駆使した事業展開も発展の可能性を有していることも確認できたため、今後は来館による実施とリモートや配信を組み合わせて研修効果を高める方法を検討する。 中期計画の初年度として、今後の事業の在り方を検討できたことを評価し、Ｂ評価とした。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1314B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　大原嘉豊

【実績・成果】
・例年は文化財保存修理所内工房を当館研究員が巡回し、文化財の修復状況を確認するとともに、修理技術者に指導・助言を行っていたが、新型コロナウイルスの影響により5月、7月、9月は中止とし、保存修理指導室員のみによる監督指導にとどめた。また、2か月に一回、修理技術者と当館との定例会議を開催した。場所は新型コロナウイルス感染予防のため、文化財保存修理所応接室から事務棟4F大会議室に変更した。（巡回4回、会議7回）
・当館開催の特別展と特別企画において修理技術者に対する定例の研修会を実施した。（計2回・146人）
　特別展「京の国宝」（8月30日・87人）
　特別展「畠山記念館の名品」（10月25日・59人）
・新型コロナウイルスの影響により、保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は中止となった。
・文化財修復に係わる大学院生（2人）のインターンシップ実習が10月11日～21日の間に実施された。
・12月18日にインターンシップ報告会を新型コロナウイルス感染予防のためオンラインにて開催し、報告書を作成した。（出席者35人）。
・博物館における、保存科学、修復の専門家等による文化財存修理所の視察を受け入れ、情報交換などを行った。（計 38 回・142 人）
　宮内庁　京都事務所、保存工事事業委員会　（7 月 9 日・6 人）
　文化庁　都倉俊一長官他 5 人(11 月 1 日・6 人)
　東京藝術大学(12 月 7 日・4 人)他 126 人

【補足事項】
・文化財保存修理所巡回に際して、技術者より文化財の修復状況について説明を受け、当館研究員が専門的な立場から指導・助言を行った。11月の巡回は、新型コロナウイルス感染状況に鑑み、保存修理指導室員、係長・室長以上の管理職員、研究員、2年度及び3年度の新任常勤職員に絞り実施し、1月及び3月の巡回は保存修理指導室員、課長補佐・専門員・上席研究員以上の管理職員に絞り実施した。
・文化財修復にかかわる大学院生をインターンシップとして受け入れ、実習を行ったことは、今後の若手技術者育成という点でも大きな意義がある。

インターンシップ報告会

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会は中止を余儀なくされたが、インターンシップ実習は実施することができた。インターンシップ報告会をオンラインで開催するなど、規模の変更等で対応し、所定の事業を実施することができたため、B評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 保存修復技術を専攻する大学院生のための研修会の開催は中止となったが、保存科学・修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら実施できたことは、中期計画の初年度として一定の成果をあげたといえる。特にインターンシップ報告会をオンラインで開催したことはコロナ禍における新たな試みとして特筆すべき点であり、評価されるべきものと考えられる。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1314C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）

担当部課	学芸部	事業責任者	保存修理指導室長　荒木臣紀

【実績・成果】
（４館共通）
・保存修理技術者に対する研修会は、新型コロナウイルス感染防止の観点から3年度は実施しなかった。
・新型コロナウイルス感染防止の観点並びに海外修理技術者の来日中止のため、3年度は視察の受け入れはなかった。
・NPO法人文化財保存支援機構と「文化財保存修復をめざす人のための実践コース」をオンライン配信で行った。

【補足事項】
・文化財保存修理所技術者研修会
　4年1月末に文化財保存修理所の各工房修理技術者を対象とする研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染防止対策により、4年度に延期することとなった。

「文化財保存修復をめざす人のための
実践コース」をオンライン配信の画面

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 視察の回数や人数は年により増減があるが、2年度以降は新型コロナウイルス感染防止の観点から海外専門家の文化財保存修理所見学を行っていない。海外から修理技術者が以前のように往来できるようになった際には、日本美術の修理技術や修理の考え方を広く伝えるため見学を再開して取り組みたい。 コロナ禍における、新たな育成方法の試みとして配信による技術者養成プログラムを始めた。問い合わせへの対応や修正報告書による成果公表、データベース化などにより、外部の保存修理従事者が情報を取得できる環境は例年通り整えており、コロナ禍においても目標に向かった人材育成に寄与できたと考えられる。

【中期計画記載事項】
　保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 これまでは海外修理技術者の視察受け入れや修理所修理技術者の研修会を行ってきたが、3年度も昨年同様に新型コロナウイルス感染防止の観点から技術者と海外の専門家との交流を行うことができなかった。 3年度も感染防止のため従来のような対面型人材育成プログラムは実施ができなかったが、修理中の作品の科学分析を技術者と保存科学者が同じテーブルについて解析するといった作業や、リモートやウェブ配信といった新たな手法を用いて文化財の保存・修理に関する人材育成に寄与できたことから、中期計画を着実に遂行している。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1314D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動 ①教育活動の充実等 4)国内外の有形文化財の保存・修理に関する人材育成への寄与

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-4)（４館共通）

担当部課	学芸部博物館科学課	事業責任者	課長　木川りか

【実績・成果】
（４館共通）
文化財保存普及のための講座・研修を開催予定であったが、2年度に続き新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止したものが多い。一部の講座は、感染症対策を徹底した上で実施することができた。

【補足事項】
・博物館実習
当館で実施した博物館実習のうち、「博物館の環境保全と文化財の調査・文化財の修復」の講義において、保存修復エリアの見学を実施し、各室の役割について紹介した。
・放送大学授業
当館の研究員が担当している放送大学の面接授業「博物館をまなぶ」のうち、第５回「文化財の保存と修復」において、参加者へ向けた保存修復エリアの見学を実施し、各室の役割について紹介した。
・寒糊炊き
２年度に引き続き、参加者を館内職員に限定した寒糊炊きを３年度においても実施予定であった。屋外テントにおける実施、作業中のマスクの着用及び手袋の徹底など、新型コロナウイルス感染対策を施した上で実施する予定としており、取材はメディア６社からの申し込みがあった。しかし、１月中旬より福岡県下での感染者数が１週間で６倍超と急激に増加したことを受け、感染拡大防止の観点から急遽中止した。
寒糊炊きは、装潢文化財の修理に必要不可欠な古糊（小麦澱粉糊(新糊)を涼暗所で約 10 年間寝かせ、接着力を弱めた糊）のもとになる新糊を炊く作業で、文化財修理の意義を広める貴重な機会であり、感染状況に鑑みながら次年度以降も実施してゆく予定である。

博物館実習の様子

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度と同様に、3年度においても実技を伴う体験や実習を中止した。しかし、新型コロナウイルスの感染防止対策を施した上で、館内の博物館実習参加者や放送大学の講義受講者に向けて、保存修復に関する講義や保存修復施設の見学を実施することができたことから、年度計画を達成できた。

【中期計画記載事項】
保存科学、修理技術及び博物館関係者等を対象とした人材育成に係る事業を関係機関と連携しながら検討、実施する。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 3年度においても、新型コロナウイルス拡大防止の観点から実技を主とする研修事業は実施を中止した。しかし、新型コロナウイルス感染対策を施した上で保存修復に関する講義や保存修復施設の見学を実施し、文化財修理事業を一般の方々に周知することができたことから、中期計画を順調に遂行している。 保存・修理に関わる人材育成は継続して行う必要があり、中期計画に従って修理技術者、IPM従事者、地元の教育委員会等と連携しながら、対応可能な内容での研修を検討したうえで実施の方向性を探っていく。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1315A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信		
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組		
【年度計画】 ・Ⅰ-1-(3)-①-5)（4館共通）ア、イ、ウ、エ、オ ・Ⅰ-1-(3)-①-5)（東京国立博物館）ア、イ			
担当部課	総務部総務課	事業責任者	課長　竹之内勝典
【実績・成果】 （4館共通） ア　3年度より新会員制度へ移行し、会員総数は9,881件、2年度（12,418件）の2割減となった。 イ　賛助会会員を対象として、12月6日（月）に、総合文化展の貸切観覧と事業報告会、特別講演からなる賛助会感謝デーを実施した。 ウ　みずほプレミアムクラブ会員やJTBステージ会員向けにオンラインイベントを企画・生配信し、認知度向上に努めた。 エ　三菱商事株式会社の協力で障がい者内覧会を予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。 オ　各種事業のbeyond2020への登録や、「日本博」事業に参画した。 （東京国立博物館） ア　会員制度については、総合文化展料金改定に伴い、特典の見直しなど抜本的な制度改正を行った。 イ　上野文化の杜新構想実行委員会において、地域と連携して当館の認知度向上につながるウェブサイト、映像の制作に協力した。			
【補足事項】 （4館共通） ア　賛助会会員件数546件の内訳は個人486人（プレミアム/プラチナ7人、特別/ゴールド40人、維持/シルバー439人）、団体60団体（特別20団体、維持40団体）である。 オ　3年度に実施した事業のうち、beyond2020への登録件数は8件、「日本博」事業への参画件数は主催・共催型が3件、参画型が4件であった。			
【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 会員制度は、特別展の内容が大きく左右し、特別展鑑賞をメインの特典としたメンバーズプレミアムパスを廃止したことや、新型コロナウイルスの影響により会員数は減少となった。しかし、企業等と連携することで賛助会等の制度について認知度を高めることができた。また、改正を行った会員制度について新たにリーフレット等を作成し、新制度の普及に努めた。 以上の実績により、所期の計画は達成できた。		
【中期計画記載事項】 企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。			
【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 会員数は展覧会の内容などにより増減している。寄附による博物館の支援を目的とした賛助会員は個人・団体ともに年々堅調に推移したところ、新型コロナウイルスの影響のため、全体としての会員数は減少となったものの、博物館の支援基盤の充実という意味では、中期計画に沿った業務遂行が行われているといえる。本中期においては、4年度の創立150周年に向けて会員制度のあるべき姿を検証し、引き続き支援者の増加に努める。		

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1315B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、オ、(京都国立博物館）ア、イ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 部長　尾野善裕

【実績・成果】
（4館共通）
ア　「国立博物館メンバーズパス」の会員数は減少傾向にあるが、特典内容をウェブサイトにて案内する等、会員数の拡大に努めた。
イ　当館発行の「国立博物館メンバーズパス」について、2年度に引き続き近隣文化施設との相互割引等の特典を設定した。
ウ　2年度に引き続き、株式会社三越伊勢丹と連携し、国立博物館コラボレーションギフトに参加した。
エ　企業（岩谷産業、カシオ計算機、NISSHA、日本通運、三井不動産）等より、展覧会事業について各種支援（協賛・協力）を得た。
オ　beyond2020や日本博に、凝然国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」をはじめとした展覧会やイベントを登録した。
（京都国立博物館）
ア
・一般社団法人清風会が行う鑑賞会（5回）・見学会（3回）・会報（4回）の解説、執筆及び総会の開催に協力した。鑑賞会のうち1回は、特別・賛助会員向けのプレミアム鑑賞会として実施。
・清風会の新しい加入者を増やす取り組みとしてキャンパスメンバーズ向けにチラシを作成し、加入の呼びかけを行った。
・凝然国師没後700年 特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」開催中に、公益財団法人仏教美術研究上野記念財団によるシンポジウムを予定していたが、新型コロナウイルスの影響を受け中止とした。ただし、登壇予定者により報告書を発行した。
イ
・ミュージアムパートナー制度では、新型コロナウイルスの影響による厳しい経済状況下においても全てのパートナーから継続して支援を得られた。
・文化財保護基金では、企業等からの寄付金を引き続き受け入れ、連携を図った。

【補足事項】
（4館共通）
ウ
・近隣のタクシー会社と連携し、ステッカーを作成し、タクシー車両のリアガラスの部分に掲示してもらい、展覧会の広報活動を行うことができた。

タクシーのリアステッカー

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 企業等との連携では、タクシー会社との連携によりリアステッカーの掲示をお願いする等、主に当館の広報面での連携が取れており、今後も継続的に取り組む予定である。ミュージアムパートナー制度と「国立博物館メンバーズパス」については、コロナ禍の影響で顕著な成果が上がりにくい状況にあるが、新規加入に向けて営業活動等を積極的に行っている。 また、清風会との間では緊密な連携をとりつつ新規会員を募集するための新しい広報の取り組みも行っており、コロナ禍にもかかわらず総会員数が増加した。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 コロナ禍の影響で企業等からの協力が得にくい状況の中で、タクシーのリアステッカー掲出、ミュージアムパートナーとの連携によるコンサートの開催など連携・協力体制を維持することができている。また、清風会の総会員数の上昇は、新規会員獲得に向けての努力の結晶である。コロナ禍という尋常ならざる状況下にあることを勘案するならば、中期計画の初年度として十分な成果ということができ、Ｂ評価が妥当であるといえる。 今後は、ミュージアムパートナーを含む企業等と博物館の双方にとってメリットがある取り組みを模索し、協力体制のさらなる拡大を図るとともに、清風会の新規会員獲得に向け、取り組みの充実を目指したい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1315C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、オ、（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	総務課	事業責任者	課長　大西真一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　入会案内チラシの配布等の広報をイベントごとに行い、賛助会員の新規獲得を図った。
イ　賛助会員、奈良博プレミアムカード会員を対象とする研究員による解説付きの特別鑑賞会を実施した。
ウ　大手百貨店と連携してコラボレーションギフトの作製を行い、自己収入の増加と博物館の認知度向上を図った。
エ　展覧会の共催者と連携し、企業等からの協賛・協力を募った。
オ　東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として実施される「日本博」の趣旨に合わせた特別展「国宝　聖林寺十一面観音－三輪山信仰のみほとけ」を実施し、日本文化の発し方について広報連携を図った。
（奈良国立博物館）
ア　支援団体等が主催する展覧会の解説付き鑑賞会の実施に協力した。
イ　特別展の実施に際して企業等からの協力金を得て特別展の充実を図った。
ウ　賛助会員121件（特別支援会員：1団体、特別会員5団体、一般会員（団体）：18団体、一般会員（個人）:97名）
エ
・地元商店街、地元企業及び地元自治体と連携して観光イベント等を実施することにより、博物館の認知度向上と顧客層の開拓に努めた。
・企業と連携し、不用品の査定換金額が奈良国立博物館に寄付される取り組みを行った。

【補足事項】
・三越伊勢丹と連携してコラボレーションギフトの製作・販売を行った。商品カタログへの情報掲載を通じて広報を行い、博物館の認知度向上に繋げた。
・地元企業と連携し、第73回正倉院展のチケット持参での割引制度を実施した。
・地元自治体と連携し、ふるさと納税の返礼品を提供した。

三越伊勢丹とのコラボレーションギフト

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度は新型コロナウイルスの影響により会員数が減少したが、3年度より奈良博プレミアムカードの優待内容を変更し、会費の値下げ及び入会時に付録を付けたキャンペーンを実施したことで、会員数の増加へと繋がった。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、新規会員獲得に向けた活動を積極的に行うとともに、優待内容を充実させるなど、支援の継続を図った。 また、地域連携として近隣商店街、地元企業や地方自治体等と協力し、自己収入の増加と博物館の認知度向上に繋げており、中期計画を確実に遂行できている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1315D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　①教育活動の充実等　5)博物館支援者増加への取組

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（４館共通）ア、イ、ウ、エ、オ
・Ⅰ-1-(3)-①-5)（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	交流課 広報課 総務課	事業責任者	課長　田中篤 課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　「九州国立博物館友の会」及び「九州国立博物館メンバーズプレミアムパス」制度の会費及び特典内容を見直し、会員制度の拡充を図った。
イ　「九州国立博物館友の会」会員を対象に、季刊情報誌「アジアージュ」、特集展示チラシ等を送付した。
　「九州国立博物館賛助会」団体会員を対象とした特別展特別鑑賞会について、感染防止対策のため開催せず、代わりに日時指定のない招待券を送付した。
ウ
・大手百貨店と連携してコラボレーション商品を作成し、博物館の認知度向上に努めた。
・JR九州や西日本鉄道等と連携し、福岡・九州の交通要所において特別展や特集展示を告知した。
・西日本新聞社及び公益財団法人九州国立博物館振興財団との共同事業として、国指定重要無形民俗文化財でユネスコ無形文化遺産「山・鉾・屋台行事」の1つに登録された「博多祇園山笠」の飾り山を1年ぶりにエントランスに展示した。
・3年度は特別展「海幸山幸」の広報の一環としてJR九州と協力し、列車を特別運行した。チケットは早い時点で完売する等、当館の認知度向上につながるものとなった。
エ　企業より展覧事業について協賛・協力を得た。
オ　特集展示及び特別展の一部について、beyond2020プログラムの認証を受けた。

特急「海幸山幸」出発式

（九州国立博物館）
ア　賛助会の広報に努め、新規会員の獲得を図った。3年度の新規加入は4人であった。
イ　太宰府天満宮や天満宮近隣にある梅ヶ枝餅店舗と連携し、周遊イベントの一環として太宰府デジタルスタンプラリーを実施した。（4月29日～5月30日）
エ
・福岡女子短期大学と連携して、音楽科学生によるコンサートをカフェエリアにて実施した。
・太宰府市、大野城市、春日市、那珂川市、筑紫野市内の中学校25校の生徒による美術作品をエントランスに展示した。

【補足事項】
（４館共通）
ア　各種会員制度について、当館ウェブサイト、リーフレット、チラシによる広報を行った。
オ　beyond2020プログラム事業認証　5件
（九州国立博物館）
ア　賛助会員（プレミアム会員（個人）1人、特別会員（個人）6人、維持会員（個人）23人、プレミアム会員（団体）1団体、特別会員（団体）1団体、維持会員（団体）18団体）
（うち新規加入　特別会員（個人）2人、維持会員（個人）2人）

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 ウェブサイト、リーフレット、チラシ等を用いて各会員制度の広報に注力した。また、制度の会費及び特典内容の見直しを行い、会員制度の拡充を図った。さらに、企業や地域との連携した広報活動やイベントを実施した。今後も、広報の充実を図り、支援者の増加へつなげたい。

【中期計画記載事項】
企業との連携や会員制度の活性化等により博物館支援者の増加を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 各種会員制度を継続及び一部見直しを行った。また、博物館支援者増加を図る取り組みを実施した。 さらに、3年度は特別展「海幸山幸」の広報の一環としてJR九州と協力し、ツアーを開催した。チケットは早い時点で完売する等、当館の認知度向上につながるものとなった。 以上から、3年度は中期計画の初年度として十分な成果を上げることができたことから、Ｂ評価とする。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1321A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)(4館共通)
・Ⅰ-1-(3)-②-2)(東京国立博物館)ア、イ、ウ

担当部課	学芸研究部博物館情報課	事業責任者	課長（兼情報資料室長）　今井敦

【実績・成果】
1)(4館共通)
・「国立文化財機構所蔵品統合検索システム ColBase」への掲載情報充実と画像追加を行った（約 56,000 枚追加)。
・「e 国宝」においてデータ整備中であった 12 件について公開した。併せて、既存多言語データ（英語・中国語・韓国語）の見直しを行った。
・画像利用条件等について、国立国会図書館等の機関と検討を行った。
2)(東京国立博物館)
ア
・資料館における美術史等の情報・資料の公開のため、9,695 件の図書及び逐次刊行物の収集・整理を行った。
・画像検索システムに画像データ 14,881 件を登録し、既存データ 2,218 件を修正して、正確な情報の提供に努めた。
・洋古書 1 冊（62 カット）のデジタル撮影を行い、デジタルライブラリーで公開した。
・資料の閲覧、複写及びレファレンスサービスを継続した。(入館者 1,103 人)
・資料の保存のため、和雑誌についての合冊製本を行った。(新規分 81 冊、遡及分 101 冊)
また貴重書用保存箱を 58 箱作成し、8 冊の補修を実施した。
・元年度に続き、図書館システム導入前に整理された和雑誌について、製本単位での所蔵データの作成とバーコード添付を 2,055 件実施した。
イ
・東京国立博物館の列品を収載している図書について、列品番号調査と収載図書データへの列品番号入力を、継続して実施した。
・protoDB における文献情報への入力準備として、展覧会カタログ及び当館刊行図書・雑誌に掲載された当館所蔵品の列品番号情報と表示用書誌情報を 1,218 件作成した。
・国立国会図書館のレファレンス協同データベースにデータを蓄積・公開することにより、レファレンスにおいても対非来館者サービスの拡充と広報に資することができた。(一般公開 208 件、新規登録 86 件、被参照数 83,358 件)
ウ
・ILL（図書館間相互利用）サービスによる文献複写サービスの受付（館内外)、NACSIS-ILL の複写料金相殺サービスを継続して行った。また新型コロナウイルス対策下において図書館の閉館や移動の自粛を求められる中、 NACSIS-ILL 非参加館からの依頼も増加し、対応を行った。
・特別展関連図書コーナーの設置、新着資料案内等をライブラリーニュースにて発信した。
・新型コロナウイルス対策のため、各種の対策をとり、安心して利用できるよう努めた。

【補足事項】
2)(東京国立博物館)

ア	新規受入図書	4,334 冊	既存図書の遡及入力	44 冊
	逐次刊行物の新規受入	2,658 冊	逐次刊行物の遡及入力	2,659 冊
イ	当館開催展覧会カタログ	407 件	他館開催展覧会カタログ	531 件
	当館刊行図書	261 件	当館刊行雑誌	19 件

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 新型コロナウイルスの影響により、大幅な予算削減と開館日減少、並びに職員が在宅勤務を余儀なくされる中、新型コロナウイルス対策に万全を期して来館利用者の安全に配慮するとともに、対非来館サービスの一つとして図書館間の文献複写サービスは従来の外部大学図書館以外にも広く対応し、館内外における利便性の維持・向上ができた。また、レファレンス協同データベースにレファレンス事例を蓄積し、公開することにより、サービスとレファレンススキルの向上に資することができた。さらに収蔵品情報に文献情報を継続して追加することにより、研究支援サービスを強化できた。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 計画に沿って適切に資料の収集整理と公開を継続するとともに、時宜に応じたサービスの改善を行い、中期目標を遂行することができている。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1321B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通）、(京都国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（京都国立博物館）ア

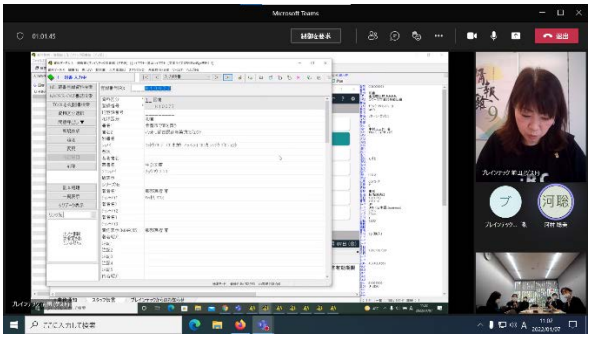
担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通）
ア　館蔵品データベースで非公開の館蔵品及び当該作品の画像を確認の上、その多くを公開した。これにより、館蔵品データベースと連携している「国立博物館収蔵品統合検索システム　ColBase」においても、公開している作品、画像数を増加させた。

（京都国立博物館）
ア
・館蔵品データベースの情報量充実に資するため、公開中のデジタル画像を4,961枚増加させた。
・当館公式ウェブサイトで公開中の館蔵品データベースについて、改善点と課題をまとめ、仕様書を策定、リニューアルに取り掛かった。
イ　オンラインによる画像利用申請を実施するうえで、必要なシステムの検討と導入に向けた課題を整理した。

Ⅰ-1-(3)-②-2)（京都国立博物館）
ア
・各業務の効率化を図るため、収蔵品管理システムのリニューアルに向けた打合せを行った。
・調査、研究、教育等に資するため、新たに図書を982冊、逐次刊行物を1,287冊収集し、蔵書管理システムに登録した。
・蔵書管理システムを導入している機器が耐用年数を超過していたため、機器をリプレイスした。
・図書や逐次刊行物の整理、管理に関する業務効率の向上に資するため、蔵書管理システムのリニューアルに向けた情報収集、仕様書の策定を行った。

【補足事項】



図書システムに向けたオンラインでの打合せ

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 デジタル画像を館蔵品データベースへ4,961枚追加することができ、情報量充実に資することができた。また、スマートフォンやタブレット等、PC以外の閲覧環境対応や、多言語対応等を目的として、館蔵品データベースのリニューアルに取り掛かることができた。 更に、館蔵品データベースと同様に、導入から10年以上経過している蔵書管理システムに関しても、館内外から情報収集を行い、リニューアルに向けて取りかかることができたため、Ｂ評定とした。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度として、デジタルデータの蓄積は順調に進んでおり、公開の基盤となる各システムのリニューアルにも取り掛かることができた。4年度以降も引き続き、耐用年数が超過しているシステムのリニューアルを進めるとともに、リニューアル後のシステムに対しても、必要に応じた改修を行い、更なる取り組みの充実化を図る。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1321C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通)、(奈良国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（奈良国立博物館）ア

担当部課	学芸部	事業責任者	資料室長　野尻忠

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-1)
（４館共通）
ウェブサイト上のデータベースにおいて、収蔵品等の情報を積極的に公開した。
（奈良国立博物館）
ア・仏教美術情報の公開・普及を図るため、撮影やデジタル化などで収集した画像データを、データベース等で積極的に公開した。収蔵品データベースで新たに公開した収蔵品件数は、20件である。
・2年前から試験運用と改修を続けていた中国語版、韓国語版の収蔵品データベースを12月に公開した。
・画像データベースでの新規公開件数は、3,778件である。

イ　ウェブサイト上のデータベースで公開している画像について、非商業目的での外部利用には、引き続き無償ダウンロードで対応した。
Ⅰ-1-(3)-②-2)
（奈良国立博物館）
ア・図書館情報システムと写真情報システムによる資料整備と情報蓄積を推進し、その資料と情報については仏教美術資料研究センターにおいて引き続き公開した。
・図書館情報システムへの新規登録件数は、1,540冊（和書1,500冊、漢籍22冊、洋書18冊）である。
・写真情報システムへの新規登録件数は、4,269件である。

【補足事項】
・仏教美術資料研究センターでの資料の一般閲覧について、2年度は新型コロナウイルスの流行のためやむを得ず一時停止したが、3年度は利用人数を絞った上で、年間を通じて実施できた。
・仏教美術資料研究センター内の書庫の天井が、老朽化のため10月に破損したが、改修工事を経て復旧し、4年2月から利用が再開された。この機会に、書棚の整理と配架の組み替えを実施し、利用者の利便性向上を図った。

仏教美術資料研究センター書庫
整理の済んだ書棚
（上の天井が今回の破損・補修箇所）

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 定量的にみると、画像データベース、図書館情報システム、写真情報システム等の新規登録件数は例年並みであるが、収蔵品データベースの新規登録や、中国語版・韓国語版の公開など、積極的に仏教美術情報の公開・普及に努めることができた。4年度以降は、コロナ禍の影響で、新規の図書収集等は苦戦が予想されるが、可能な範囲で情報の蓄積と公開を図っていく。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 文化財の関連情報は、ウェブサイト上にて継続的に公開件数を増加できている。図書の架蔵冊数も今のところは順調に増加できており、中期計画に沿った事業を推進できている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1321D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 1)有形文化財に関する情報の発信　2)資料の収集と公開

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1)（４館共通）、(九州国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-2)（九州国立博物館）ア

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
・「国立文化財機構所蔵品統合検索システム　ColBase」に新収品を含むデータ141件を追加した。また、2年度までColBaseへの長辺3,000ピクセルの画像掲載は手動で行っていたが、3年度より自動化したことで作業負担の軽減並びにサービス向上に努めた。
・e国宝掲載の指定品データについて、新撮した高精細画像への差し替えを行った。また、掲載済みの多言語データの見直しを実施した。
(九州国立博物館)
ア　収蔵品ギャラリーに、新収品を含む141件のデータ並びに290件の画像を追加し、文化財の基礎情報に加えて3ヶ月先までの展示情報を統合して情報を発信した。
イ　対馬宗家文書のデータベースは、引き続き公開運用を続けた。また、同テータベースのリニューアルの要件を検討した。
(九州国立博物館)
ア
○蔵書管理
・新規に図書523点、雑誌855点、図録・報告書2,743点を購入又は受贈し、蔵書管理システムに登載した。
・利便性並びに管理効率向上のため、図書資料の再分類と装備修正、配架区分を見直した。
○画像管理
・文化財情報システムの一部として運用する画像管理システムに2,689点の画像を追加登録した。画像管理システムと収蔵品の基礎データと連携させることで、情報の価値を相互に高め、利用者が活用しやすい環境づくりに寄与した。
・ウェブサイトで公開中の画像検索システムに約1,700点の画像を新規に追加した。申請により利用できる画像の一覧をウェブサイトに公開することで、文化財画像の利用に係るサービスを向上させた。

【補足事項】

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 2年度に引き続き、ColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて収蔵品データ並びに画像等のコンテンツを追加公開し、発信する収蔵品情報を充実させた。また、対馬宗家文書データベースを引き続き公開しつつ、リニューアルについて検討した。 新規に図書523点、雑誌855点、図録・報告書2,743点を購入または受贈した。蔵書管理システムに登録している蔵書データ整備を進めた。画像管理システムは、収蔵品管理システムと連動させつつ、内容の充実を図った。

【中期計画記載事項】
1)ウェブサイト等において、文化財その他関連する資料の情報を公開する。公開データの件数は継続的に増加させる。
2)美術史学・考古学・歴史学・博物館学・保存科学その他の関連諸学に関する基礎資料及び国内外の博物館等に関する情報及び資料について広く収集し、蓄積するとともに、その情報の発信と充実を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 中期計画の初年度としてColBase及び収蔵品ギャラリーにおいて文化財その他関連する資料の情報を公開した。また、新規撮影分の画像処理を進め、公開用データとして整備した。 4年度も、継続して公開データの追加していく。また、図書目録整備及び画像管理システムの内容充実を図り、より使いやすいシステムとして整備する。

【書式Ａ】　施設名 本部事務局　処理番号 1323H

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実 3)広報活動の充実　3)-1 広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-1（機構本部）ア、イ

担当部課	本部事務局総務企画課	事業責任者	課長　渋沢志穂

【実績・成果】
（機構本部）
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和3年度』（日本語版・英語版）を発行し、PDF版を機構本部ウェブサイト(https://www.nich.go.jp/)に掲載した。
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和2年度』を12月に発行し、PDF版を機構本部ウェブサイトに掲載した。
イ
・機構本部ウェブサイトの運用を継続した。掲載情報の追加更新を行い、広く一般に向けた法人情報の提供を行った。
・機構本部ウェブサイト内に機構内各施設の展覧会情報を一覧できるページを作成し、利用者の利便性向上を図った。

【補足事項】
ア
・『独立行政法人国立文化財機構概要　令和3年度』：日本語版1,700部、英語版300部発行
・『独立行政法人国立文化財機構年報　令和2年度』：169部発行

機構本部ウェブサイトの展覧会情報ページ

【評価指数】	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
ｳｪﾌﾞｻｲﾄのｱｸｾｽ件数	409,102件	298,703件	A		272,228	336,016	362,356	302,279

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	年度計画に沿って、機構の概要及び年報を作成した。また、機構本部ウェブサイトの運用を継続し、機構に関する情報の提供を行うことができた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期目標期間の初年度として、広報印刷物やウェブサイトを活用した積極的な広報活動を行うことができた。また、現ウェブサイトについては、時宜的なニーズに応えるべく、大幅な改修を見込んでおり、引き続き検討を進めていく。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1323A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（4館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（4館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（4館共通）ア（東京国立博物館）ア、イ、ウ

担当部課	学芸企画部広報室 総務部総務課	事業責任者	室長　鬼頭智美 課長　竹之内勝典

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
（4館共通）
ア　3年度年間スケジュールのリーフレット（「東京国立博物館 展示・催し物のご案内」4月-4年3月）は制作せず、当館ウェブサイトに年間スケジュールのページを作成し、年間の主な作品や展覧会を紹介した。4年度の年間スケジュールについても同様にウェブページを作成した。
(東京国立博物館)
ア　東京国立博物館ニュース(年4回発行)を制作し、総合文化展広報に努めた。また、主な事業についてはプレスリリースの作成、配信を行い、広く適切なメディアに対してのアプローチを行った。なお、周知に当たってはウェブサイト、公式SNSを重点的に活用し、最新の情報を速やかに周知した。
イ　公式キャラクター「トーハクくん」、「ユリノキちゃん」をモチーフとしたLINEスタンプを4月1日から販売した。また、1089ブログでも公式キャラクターによる展覧会紹介ブログを掲載し、親しみやすい博物館を訴求した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-2
(4館共通)
ア　JR上野駅、羽田空港等に広告出稿を継続するなど、連携した広報活動を実施した。
(東京国立博物館)
ア　特別展等の報道発表会を5回、報道内覧会を9回実施した。
イ　上野文化の杜新構想実行委員会のウェブサイトや台東区文化芸術総合サイトへの情報掲載や、東京メトロ上野駅「文化の杜路」へのポスター掲出等、イベントの広報を積極的に実施した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3
（4館共通）
ア　ウェブサイト、スマートフォンサイトによる情報提供を行った。
(東京国立博物館)
ア　『東京国立博物館ニュース』を季刊（年4回）で各75,000部の制作、配布を実施した。
イ　オンラインギャラリートーク等、動画コンテンツの発信を行った。
ウ　SNSによる適時性のある情報発信を行った。メールマガジンを24回配信した。

【補足事項】
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
(東京国立博物館)
イ　LINEスタンプについては1セット(40種類)、120円(税込)にて販売した。(3年度販売実績:1,080セット)
Ⅰ-1-(3)-②-3)-2
(東京国立博物館)
ア　4年度には創立150年を迎えることから、11月15日に周年事業を紹介する報道発表会を行い、周知に努めた。
(4館共通)
ア　成田国際空港会社・スリーエム ジャパン株式会社と連携し、成田国際空港第1ターミナルに当館収蔵品画像を使っての壁面・天井装飾を3年度も引き続き実施。羽田空港の京急国際線ターミナル及びモノレール羽田空港駅への広告出稿を継続した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3
(4館共通)
ア　11月15日から創立150年記念特設サイトを公開した。
イ　東京国立博物館創立150年記念のイメージ動画を作成し、公開した。
ウ　Twitterについては、11月フォロワー数が10万人を突破した。記念に所蔵品をモチーフとしたスマートフォン用の壁紙をTwitterにて配布した。
Twitter：フォロワー111,014件(2年度85,462件)。Facebook：いいね！34,900件(2年度33,618件。Instagram:フォロワー40,008件(2年度31,190件)。YouTubeチャンネル：登録者数14,651件

LINE スタンプ

創立 150 年記念特設サイトバナー

創立 150 年記念イメージ動画サムネイル

【評価指数】	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
ｳｪﾌﾞｻｲﾄの ｱｸｾｽ件数	11,382,143 件	7,277,091 件	A		7,014,006	7,679,851	8,235,810	7,021,923

【年度計画に対する総合評価】 評定：B	新型コロナウイルス感染症の影響を勘案し、広報用印刷物の作成、配布は控えたものの、ウェブサイト、SNS等デジタル媒体の活用等により充分な情報発信を行うことができた。 また、上野文化の杜新構想実行委員会の事業として、各施設と連携して効果的な事業を実施するとともに、台東区等の地域と連携した広報活動によって相乗的な周知を図った。 創立150年に向けた機運醸成のための情報発信を行ったことなど、目標を充分達成したと考える。

【中期計画記載事項】

展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。

ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：B	ウェブサイト、SNSを中心に自主媒体を十分に活用し、マスメディアや来館者等へ積極的な情報発信を行った。また、ウェブサイトについては創立150年記念特設サイトの開設や、アクセスシビリティ対応を行うなど、時宜的なニーズに対応しアクセス件数の向上を図った。 以上、中期計画初年度として、順調に計画を進めることができた。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1323B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1 広報計画の策定と情報提供　3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（4館共通）ア、(京都国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（4館共通）ア、(京都国立博物館）ア、イ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（4館共通）ア、(京都国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　阿部勝 企画室長　山川曉

【実績・成果】
3)-1
（4館共通）
ア　年間スケジュールの配布（3年度分）及び製作準備（4年度分、20,000部）を行った。
（京都国立博物館）
ア　特別企画「オリュンピア×ニッポン・ビジュツ」や「京博のお正月2022」、各種イベント（落語会24,000部、留学生の日13,500部等）のポスター、チラシを製作・配布した。
イ　2年度で文化大使の任期が満了したため、新たな大使の任命に向け候補者を検討した。
ウ　公式キャラクター「トラりん」を活用した広報活動を行った。
3)-2
（4館共通）
ア・特別展「鑑真和上と戒律のあゆみ」では、日本経済新聞社、京都新聞、NHK京都放送局と連携し紙面広告等による広報を実施した。
・特別展「京の国宝」では、読売新聞社と連携し紙面広告やテレビスポット広告等の広報を行った。
・特別展「畠山記念館の名品」では、日本経済新聞社、NHK京都放送局、NHKエンタープライズ近畿と連携し紙面広告やテレビスポット広告等の広報を行った。
（京都国立博物館）
ア・京都市が発行する広報紙への協力、東山区役所が主催する謎解きラリーへの協力、地元の七条鴨東商店街等が主催するスタンプラリーへの協力等、地域の各種団体と連携し、地域住民や観光客に向けた広報活動を展開した。
・京都市内博物館施設連絡協議会主催の京都ミュージアムロードに参加し、近隣博物館と連携して広報に努めた。
イ　「京都市内4館連携協力協議会」で連携し、共通の展覧会パンフレットの制作、スタンプラリー等を実施した。
3)-3
（4館共通）
ア　ウェブサイトアクセス数は外出自粛緩和の影響を受けて3,514,043件となり、目標値を下回った。
（京都国立博物館）
ア　『京都国立博物館だより』(210～213号)、『Newsletter』(149～152号)の発行を行った。
イ　メールマガジンを12回配信した（181～192号)。
ウ　収蔵品貸与情報をウェブサイトの「館外での作品公開」に70件公開した。
エ　当館公式ツイッター・YouTubeチャンネル、公式キャラクター「トラりん」ツイッター・フェイスブックを利用して継続した情報発信を行った。
オ　4年度の公開に向け、ウェブサイトリニューアル準備を継続。

公式 YouTube チャンネルにて公開した動画（英語）

【補足事項】
3)-1
（京都国立博物館）
ア　「京博のお正月2022」ポスター・チラシでは、新春特集展示「寅づくし―干支を愛でる―」を中心に、各種イベントや同時開催の展覧会情報を紹介することができた。
ウ　京都国際マンガ・アニメフェア（京まふ）2021に公式キャラクター「トラりん」を出張させて、展覧会や当館のPR活動を行った。また、ソーシャルディスタンスを確保した安全な距離で、公式キャラクター「トラりん」を最大週3回、1日3回館内に登場させて親しみが持てる博物館のイメージを印象付けた。
3)-3
（京都国立博物館）
エ　当館公式YouTubeチャンネルに4言語（日・英・中・韓）の動画を公開した。

京まふ 2021 に登場するトラりん

【評価指数】	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
ｳｪﾌﾞｻｲﾄのｱｸｾｽ件数	3,514,043件	4,386,804件	C		5,788,678	4,382,078	4,948,829	3,480,100

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ウェブサイトのアクセス件数は、外出自粛緩和の影響を受けて目標値に届かなかったが、定期刊行物や年間スケジュール、展覧会チラシの製作・配布を効果的に行うことができた。特別展においては主催者メディアと協力して多様な広報を実施した。
また、公式キャラクターを活用した発信力の高い広報活動、日頃から協力関係を築いている各種団体との連携による多方面にわたる広報活動を展開することができ、以上からＢ評価が妥当であると考えた。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、ＳＮＳ等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
ウェブサイトのアクセス数については目標値に届かなかったが、2年度と比べて回復傾向にあることや、それぞれの展覧会に応じて多様な広報活動を展開するとともに、ウェブサイトのリニューアルも順調に進めることができており、中期計画を順調に遂行できているといえるため、Ｂ評価が妥当である。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1323C

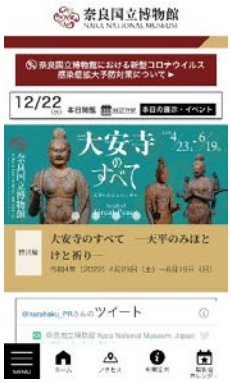
中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供　3)-2マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動 3)-3広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（4館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（4館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-3（4館共通）ア（奈良国立博物館）ア、イ、ウ、エ

担当部課	総務課 学芸部	事業責任者	課長　大西真一 情報サービス室長　宮崎幹子

【実績・成果】
Ⅰ-1-(3)-②-3)-1
（4館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットの制作・配布を行った。
（奈良国立博物館）
ア　・各展覧会の特性や意義に応じた広報の方針を議論する広報戦略委員会を7回実施した。
　　・特別展の割引券を近隣の宿泊施設や観光案内所等に配布した。
イ　・笑い飯・哲夫氏（よしもとクリエイティブ・エージェンシー）を文化大使として引き続き任命し、出演するテレビやラジオ等で当館のPRをしていただいた。任命式ではその様子をYouTubeにて配信した。
　　・浅井企画の仏像大好き芸人である、みほとけ氏と交流を持ち、氏が配信している週刊ほとけNEWSで当館のPRを行っていただいた。
ウ　当館の認知度を高めるために、ブライダルの前撮り撮影場所として仏像館西側、茶室、庭園及び仏教美術資料研究センター等を提供した。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-2
（4館共通）
ア　特別展においては、主催者である新聞社と連携し積極的に紙面広告を掲載することで展覧会の広報を行った。また、公共交通機関とタイアップした社内吊り広告や駅貼ポスターの掲出や、地下鉄駅構内の有料広告スペースへのポスターの掲出により展覧会に関する情報発信を行った。
（奈良国立博物館）
ア　奈良トライアングルミュージアムズ(奈良国立博物館・奈良県立美術館・入江泰吉記念奈良市写真美術館)として、相互割引を実施した。
イ　なら仏像館で年４回実施している仏像供養、保存修理所公開、各種イベント等には、マスコミへの情報提供を行い、取材を積極的に受け入れた。
ウ　奈良県が後援する観光イベントへの積極的な協力や、奈良市観光協会との連携等、地域の観光団体等と連携した広報活動を展開した。
エ　期間限定の無料観覧券を周辺関連社寺において配布し、展覧会の広報と博物館の認知度アップに繋げた。
Ⅰ-1-(3)-②-3)-3
（4館共通）
ア　広報活動拡充の一環として、4月1日付けでウェブサイトの全面的なリニューアルを行った。併せてウェブサイトの英語・中国語・韓国語版を公開し、多言語による情報発信を充実させた。
（奈良国立博物館）
ア 特別展、特別陳列の案内、名品展の展示品の紹介に加えて、文化財にかかわるエッセイやイベント情報等を掲載した季刊誌『奈良国立博物館だより』の編集・発行・配布を行った（年4回）。
イ 名品展や特別展の紹介に加えて、イベント情報等をウェブサイトに掲載した。SNS（Twitter）でも迅速かつ効率的な情報発信を行い、フォロワー数の増加に努めた。マスコミ向けのメール配信システムを導入してプレスリリースの配信が可能となり、広報体制が強化された。
ウ 季刊誌『奈良国立博物館だより』のPDF 版をウェブサイトに掲載した。
エ 新型コロナウイルス感染拡大による外国人観光客の減少に鑑み、展覧会チラシの外国語版作成は見送ったが、収蔵品情報の多言語化を促進させて、収蔵品データベースの中国語・韓国語版の公開が実現した（12月）。

【補足事項】
・リニューアルしたウェブサイトはレスポンシブルデザイン（スマートフォン対応）とし、閲覧者の利便性を向上させた。また、CMS を導入したことにより各部署での更新作業が容易になった。新型コロナウイルス感染症拡大による開館時間変更や臨時的な来館者対応が多いなか、各部署において迅速な情報発信が可能な体制を構築することができた。
・収蔵品データベースの中国語・韓国語版の公開により、多言語による収蔵品情報の発信が充実した。
・YouTube で「ならはくチャンネル」と登録し、奈良博の紹介や各展覧会の情報の動画を作成し情報発信を行った。
・奈良 蔦屋書店で当館の過去図録の販売を開始し、広い世代に向けた当館の知名度向上に努めた。



ウェブサイト

収蔵品データベース（中国語版）

・近隣の観光案内所、書店、ホテル等で当館のカレンダー販売を開始し、奈良博の知名度向上に繋げた。
・「ざんまいず」を奈良博公式キャラクターとして正式に採用し、広報物で使用することで奈良博の知名度向上に繋げた。また「ざんまいず」のLINEスタンプを販売し、自己収入の拡大に繋げた。
・タカラッシュが運営する『ハンターズヴィレッジトレーニングクエスト』を実施し、敷地内でリアルなぞときゲームが体験できるコンテンツを通年で提供した。
・なら仏像館西側敷地内に撮影スポットタイルを地面に設置し、来館者が撮影したなら仏像館をSNSで発信してもらえるように工夫し、撮影の楽しさと知名度向上に繋げた。
・月額制チケットサービス「Sonoligo」と契約し、定額でなら仏像館に入館できるシステムを構築した。
・クラウドファンディングを使用し当館の庭園及び茶室の改修のための寄附を募り、10,625,380円の寄附を得た。

蔦屋書店での図録特設コーナー

ざんまいずのLINEスタンプ

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
ウェブサイトのアクセス件数	1,236,917件	1,331550件	C		1,385,404	1,316,654	1,704,901	1,082,864

【年度計画に対する総合評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
3年度は、新型コロナウイルスの外出自粛等の影響を受けウェブサイトのアクセス数が目標値へ達することはできなかったが、2年度よりは回復傾向にある。そして情報発信の基盤となるウェブサイトのリニューアルと新しい体制での運用を滞りなく行うことができ、リニューアル後も改修を重ね、ウェブアクセシビリティ配慮などの視認性の向上に努めた。当館登録側も発生源入力等ソフトを導入しウェブサイトが発信しやすく、また見やすい体制となったことにより、より的確な情報提供ができるようになったため当館の広報力が飛躍的向上したことは評価に値する。
また、文化大使である笑い飯・哲夫氏、十手リンジン・エナジー西手氏、みほとけ氏によりテレビ・ラジオ番組やSNSでPRいただき、当館のPRに繋げることができた。
民間企業、地方公共団体及び公共交通機関とタイアップして幅広く広報活動を行うことができた。
以上を勘案すると、B評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS 等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】
評定：B

【判定根拠、課題と対応】
展覧会においては、館内委員会や共催者との会議において、展覧会毎に広報計画を策定し、企画の目的や内容、対象者に応じた効果的な情報発信を行うことができた。
また、アクセスログ解析に基づき、スマートフォン利用者を念頭に置いてウェブサイトのリニューアルを行い、時宜に適ったデザインにすることができた。併せて、CMSの導入により、全館的に広報や情報発信が可能となる環境を整備することができ、情報提供の即時性などが急速に向上できたことは評価に値する。
3年度は新型コロナウイルスの影響もあり、ウェブサイトのアクセス数は目標値に達することができなかったが、上記の他、民間企業や地方公共団体、公共交通機関との新規のタイアップ等も県内大手企業と共同して行ったことなど、積極的な広報活動を目指す中期計画に基づき、予定を順調に遂行できている。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1323D1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-1広報計画の策定と情報提供

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-1（４館共通）ア、（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	学芸部企画課 広報課	事業責任者	課長　白井克也 課長　沓掛裕顕

【実績・成果】
（４館共通）
ア　年間スケジュールリーフレットを製作し、配布した。
（九州国立博物館）
ア　特別展ごとに、ポスター等を製作した。特別展「よみがえる正倉院宝物」、「最澄と天台宗のすべて」では、巡回館が共同で利用するプレスリリース冊子を、併せて利用した。また、それぞれの特別展において、展覧会担当者のナレーションで展示を紹介する動画を作成し、ウェブサイトで公開した。さらに展覧会担当者によるテレビ番組への出演や、地元新聞や美術誌、フリーマガジン等へ展覧会情報を掲載したほか、公式Twitterにおいて展示会の見所や展示品を紹介した。
イ　応援大使サラ・オレイン氏がナレーションを務める広報番組TVQ九州放送「太宰府・九博散歩道」を制作した。
ウ　展示リストのウェブデータベースの整備を継続して進めた。
エ　福岡空港・JR九州・西日本鉄道・観光案内所・ホテル等と連携し、ポスターやチラシなどによる広報を継続するとともに、公式Twitterにおいて展示品の写真や動画を紹介し、文化交流展示室の魅力を発信した。
オ
・お正月イベントにおいて、県内特産品を取り扱う民間企業と連携した記念品を制作し、文化交流展来場者へ配布することで誘客促進を図った。
・映画「北斎」「あなたの番です　劇場版」とのコラボにより、Twitterでのクイズキャンペーンを実施し、若年層など新規顧客層獲得への広報を展開した。
・大手百貨店と連携し、コラボレーション商品を作成した。

伊勢丹とのコラボレーション商品

【補足事項】
（九州国立博物館）
ア　太宰府観光協会と連携して参道フラッグを設置し、参道に訪れる方々への広報活動を実施した。
エ
・「九博だより」を毎月、「季刊情報誌アジアージュ」を年4回発行し、公共施設・交通機関・観光案内所・宿泊施設等に送付するとともに、ウェブサイトへの掲載や電子配信による情報発信を行った。
・Twitter、メルマガ、ウェブリリースサービスを活用し、多様な情報を発信した。（メルマガ開封率 40%）

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 チラシや情報誌等の紙媒体による広報を継続するとともに、映画とのタイアップやSNSの活用など若年層に当館を知ってもらうための情報発信に取り組んでおり、Twitterフォロワー数は順調に増加している。メルマガ開封率も高い状態が維持されている。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 マスコミや交通機関など関係機関と連携してPRするほか、来館できない方にも当館の魅力を伝えられるようSNS等を活用した広報を実施しており、中期計画は順調に遂行できている。今後も効果的な広報手段を検討し、一層の改善を図りたい。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1323D2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（３）教育・普及活動　②有形文化財に関する情報の発信と広報の充実　3)広報活動の充実 3)-2 マスメディアや近隣施設との連携強化等による広報活動　3)-3 広報印刷物、ウェブサイト等の充実

【年度計画】
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（４館共通）ア、(九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ
・Ⅰ-1-(3)-②-3)-2（４館共通）ア、（九州国立博物館）ア、イ、ウ、エ、オ

担当部課	広報課 総務課	事業責任者	課長　沓掛裕顕 課長　執行正一

【実績・成果】
（４館共通）
ア　主要駅でのデジタルサイネージ掲出など、公共交通機関等と連携して広報活動を展開した。
（九州国立博物館）
ア　マスコミ各社を対象とした記者発表会、内覧会を実施した。特別展「皇室の名宝」では在京メディア向けにYoutubeライブ配信を行った。
イ　太宰府観光協会と連携して告知フラッグを設置したほか、デジタルスタンプラリーを実施し、天満宮周辺の周遊を促した。また、当館プロモーションムービーを作成し、各種公共交通機関へ掲出した。
ウ　新型コロナウイルスの影響により、九州観光推進機構等を通じた海外に向けた広報や営業は中止している。当館ウェブサイトや当館ブログでは、4言語(日・英・中・韓)での情報発信を継続して行った。
エ　博多祇園山笠振興会等と連携し「飾り山笠」の展示企画を実施した。

太宰府駅でのプロモーションムービー放映

（４館共通）
ア 展示・イベント情報の提供や、駐車場の混雑対策のため、ウェブサイト、Twitter にて駐車場空き情報を継続して提供した。
（九州国立博物館）
ア　当館ウェブサイトをスマートフォンでの閲覧に適したレイアウトに変更するなど、利用者の利便性に配慮して改修した。
イ　4言語（日、英、中、韓）によるウェブサイトでの情報提供を継続して行った。
ウ　「季刊情報誌アジアージュ」を年4回発行し、公共施設・交通機関・観光関係機関に送付するとともに、より多くの方に見ていただけるよう電子配信サービスを活用した。
エ　月2回発行するメールマガジンでは、展示やイベント情報のほか館内外の魅力ある光景を配信した。また、Twitterでは教育普及活動や九博トリビアなど、普段の来館では見ることのできない様々な内容を発信した。
オ　展示されている文化財やイベントを紹介する動画を、YouTubeチャンネルやTwitterにて紹介した。

【補足事項】
（九州国立博物館）
エ　Twitterのフォロワーは3年度で約3,800人増加し、20,851人(R4.3.31)となっている。

【定量的評価】項目	3年度実績	目標値	評定	経年変化	29	30	元	2
ウェブサイトのアクセス件数	977,605件	1,670,014件	D		1,607,401	1,752,803	2,047,955	824,819

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	3年度においても新型コロナウイルスの影響によるイベントの中止や延期等により、ウェブサイトのアクセス件数は目標値に達せられなかったものの、2年度よりは増加しており回復傾向にある。更にマスコミや企業及び地域近隣団体と連携し、広報活動に努めた結果、メルマガ登録数の増加及び開封率は高い状態を保っており、Twitterのフォロワー数も順調に増加している。以上の点を勘案し、B評価が妥当であると考えられる。

【中期計画記載事項】
展示や教育事業等について、個々の企画の目的、対象、内容及び学術的な意義並びに各種アンケート等分析結果も踏まえて戦略的な広報計画を策定し、情報提供を行う。また、広報印刷物やウェブサイト、SNS等の自主媒体の活用、並びにマスメディアや各博物館の近隣施設との連携強化等により、積極的な広報を行う。
ウェブサイトの運用においては、アクセス件数の向上を図り、各施設の工事等による影響を勘案しつつ、前中期目標の期間の実績以上を目指す。さらに、時宜的なニーズに応じたウェブサイトの構築等について、一層の改善を図る。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	3年度は新型コロナウイルスの影響によるイベントの中止や延期等により、ウェブサイトのアクセス数は目標値に達することができなかったが、2年度よりは回復傾向にある上、広報誌等の発行やSNSを活用した広報活動を実施したほか、関係機関と連携した周遊イベント等で館のPRに取り組むことができており、中期計画の初年度として順調に計画を遂行できているといえる。4年度以降も、より魅力的な広報について、地域とも連携しながら改善を図っていきたい。